

# 生涯研修自由研修課程・日技指定研修

## 「顎口腔機能学日技指定研修」

受講  
無料

日時:2022年4月17日(日)9:30~13:00

会場:東京都歯科技工士会館研修室

住所:〒170-0004 豊島区北大塚 2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4階

「顎口腔機能学」をわかりやすく!



これからの歯科技工  
に求められていること

講師 小出 馨 教授

日本歯科大学 名誉教授



咬合器設定のちがいに  
よる臨床例

講師 森野 隆 先生

公益社団法人 日本歯科  
技工士会 副会長

1989年(平成元年)の全国歯科技工士教育協議会において、教育内容、年限、養成者数などの検討が始まり、1992年12月(平成4年)に「歯科技工士養成所指定規則」が改定され、歯科技工士教育の教授要綱が改められた。その中で新科目の設置が行われ、新たに登場した学科目が「顎口腔機能学」である。この新学科目には2つのポイントがあり、1つはそれまで「歯冠修復技工学」と「有床歯科技工学」の『下顎運動と咬合器』の章でそれぞれ学んでいたものを統一・整理し、「咬合の知識・咬合器の取り扱い」として示した。もう1つは顎口腔系の解剖学・生理学が歯科技工士教育に取り入れられたことである。

全国での教育開始時期に差はあるが、概ね45歳が境になる。つまり45歳以上の方々は養成所、教育機関において履修科目に入っていなかったことになる。令和2年の厚生労働省「保健衛生行政業務報告」でみると、就業歯科技工士の約7割以上の歯科技工士がこの年代であり、上記の分野に関しては履修していないのである。

そこで日本歯科大学名誉教授 小出馨教授に監修していただき、同大学講師の小出勝義先生に「日本歯技」サイエンスで2回にわたり「顎口腔機能学」をわかりやすく!」の執筆をお願いした。この章をテキストとして「日技指定研修」の講演を依頼し、実施に至った。多くの会員皆様が参加して下さい、明日からの臨床に役立てていただければ幸いです。

\*\*\*\*\*  
【オンラインセミナー受講定員 100名】【会場受講定員 15名】 申し込み締め切り日 4月14日(木)

- ① 右記のQRコードから申し込み、もしくは裏面の申込用紙へご記入の上FAXにてお申し込みください。
- ② QRコードにてオンライン申し込みされますと登録したメールアドレスにURLが自動返信されますので、ご確認下さい。返信が無い場合は、東京都技までご連絡ください。電話：03-3576-5611
- ③ オンライン参加される方はパソコン等の聴講機器の登録名はフルネーム(漢字)をご記入ください。  
ペンネーム、イニシャル等の場合本人確認が取れない為、出席単位の申請ができません。



演題：「顎口腔機能学」をわかりやすく！  
～これからの歯科技工に求められていること～

日本歯科大学 名誉教授

小 出 馨

医療の目的は人の健康維持です。その中で歯科医療の果たす役割は、歯列をはじめとする顎口腔系の再建と保全による諸機能の維持増進で、諸機能には咀嚼、嚥下、呼吸、発音、口腔感覚、審美、姿勢維持などが含まれます。

そして、医療の中でも唯一歯科だけが介入できる咬合治療は、顎口腔系のみならず全身の健康や身体運動能力に、ひいては国民の日々の生活の質や健康寿命にまで大きく影響を及ぼす極めて重要な要素です。さらに咬合は、前頭前野をはじめとする脳機能の活性化、生きることへの意欲の回復、精神心理状態の改善にまで影響し、人生の満足度の観点からも極めて重大な役割を果たしています。

また近年、患者さんから咬合が顎関節や全身に及ぼす影響、さらにその不調和に由来する様々な症状についての問い合わせが大変多くなってきており、患者さんの咬合と全身に対する認識が大きく変化してきていることを痛感させられます。特に補綴による咬合治療を臨床現場で実際に行う歯科医師と歯科技工士が、十分に認識しておかなければならない重要事項は、顎口腔系の調和をみだす補綴治療を行ったとしても、直後には顕著な影響は現われない場合が多いことです。私達歯科医療者には、専門領域である咬合と顎関節に関する十分な理解と治療内容の更なる高度化が強く求められているのです。

今回の研修では、今後歯科の目指すべき方向性と、歯科医師と歯科技工士の円滑な連携のために不可欠な「顎口腔機能学の要点」と「咬合の再構築基準」を臨床に即してお示しします。会場に来て下さった皆様と、これからの歯科医療のあり方、その役割とやり甲斐の大きさを一緒に確認したいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

\*\*\*\*\*

演題：「顎口腔機能学」をわかりやすく！  
～咬合器設定のちがいによる臨床例～

公益社団法人 日本歯科技工士会 副会長  
森 野 隆

1995年に「歯科技工士教本『顎口腔機能学』」が発行され、新たに新学科目として加わりました。その後約10年を経過した2007年に改訂されています。すなわち、全くこの学科目を学生時代に履修していない方、1995年から2006年までの教本で学んだ方、2007年から2016年までの新教本、それ以降の改訂版の教本で学んだ方と4つのグループに分けることができます。

そこで今回の研修では、「顎口腔機能学」で新たに加わった「顎口腔系の機能」、「顎口腔系の形態」に関する事項と、2007年以降に加わった内容を紹介させていただきたいと考えております。

また、実際の臨床での咬合器の調整機能（矢状顎路、側方顎路、平衡側側方顎路、作業側側方顎路）設定の違いにより、作成する補綴物の咬合関係にどのような影響が出るかをお見せしようと思っております。

生体に調和した補綴物製作には不可欠な、顎口腔機能の最低限の知識を少ない時間ですが提供させて頂き、各自が自ら学びきっかけになって頂ければと考えております。

勤務先名	参加者名 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 歯科技工士		
住所 〒			
電話	参加方法	<input type="checkbox"/> 会場受講	<input type="checkbox"/> web 受講
FAX	メールアドレス		